第 36 回日本急性血液浄化学会学術集会
スポンサードセミナー 5（SS5）

Vantive

AN69ST膜を選択する患者像を考える

2025年9月21日(日)
13:10-14:00

第 1 会場
ソラシティ
カンファレンスセンター 2F
Sola city Hall West

座長
中村 智之 先生
藤田医科大学 医学部 麻酔・集中治療医学講座

演者
松本 真 先生
八戸市立市民病院　医療技術局　臨床工学科

倭 成史 先生
堺市立総合医療センター 腎臓内科

ホームページ
https://www.credoinc.jp/jsbpcc36/index.html

共催：第 36 回日本急性血液浄化学会学術集会 / 株式会社ヴァンティブ
問い合わせ先：株式会社ヴァンティブ　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目 4 番 1 号 TEL：03-4595-4750

Vantive

Thema1

臨床工学技士だからこそ出来る CKRT の膜選択

集中治療患者全体における AKI の合併率は 45%と非常に高率であり、そのうち約半数は敗血症が原因とされる。これは高サイトカイン血症に由来しており、多臓器不全への進展防止を目的として除去・制御することが急性血液浄化療法では期待されてきた。一部では生存率を向上させたという報告も散見されるが、特定の膜素材を推奨するようなエビデンスの確立にまでは至っていない。当院ではプライミングをはじめとして、膜選択、浄化量の設定、トラブル対処、回路交換と CKRT に関わるすべてを臨床工学技士が行っている。2014 年に AN69ST が販売されて以来、敗血症の有無に関わらず AN69ST を積極的に使い続け、今もなお CKRT のほとんどを AN69ST で行っている。さまざまな膜があるが、我々は CKRT に AN69ST を使って治療することをおすすめする。今回の共催セミナーでは、なぜそんなに AN69ST を使うことをおすすめするのか、長年使用してきた我々だからこそ、回路交換やトラブル対処もすべて行う臨床工学技士だからこそ話せる内容を、当院で行った 7 年分の CKRT データベースから得られた研究結果を交えながら解説していく。

松本 真 先生
八戸市立市民病院　医療技術局　臨床工学科

Thema2

敗血症に対する AN69ST 膜を用いた CKRT（Continuous Kidney Replacement Therapy）への期待と思い

敗血症では高率に AKI を併発し、敗血症性 AKI は非敗血症性 AKI と比較して死亡リスク、ICU 入室期間及び入院期間の延長にもより関連すると報告されている。さらに、高齢化や慢性腎臓病（chronic kidney disease：CKD）、糖尿病、心不全などのリスク因子を持つ患者の増加により敗血症性 AKI の発症頻度は増加している。AKI 自体がその後の CKD の進行にかかわる一方で、背景の CKD の存在自体が AKI 発症の最大のリスク因子である。したがって、AKI と CKD は相互にリスク因子となり、進展していくこと（AKI to CKD transition）が問題となり、AKI 発症前の腎機能が悪い患者ほど AKI の発症率が高いこと、さらに AKI 発症から腎機能回復までの期間が長いほど後の腎機能低下の頻度が高いことも報告されている。したがって、敗血症性において単に生命予後を改善させるだけでなく、臓器保護に留意することも求められる。一方、敗血症性 AKI の病態生理を考えた場合、HMGB1 などの炎症性サイトカインを中心とした病因因子となりうる過剰なメディエータを制御することが理論上求められる。本講演では、CAH：cytokine-adsorbing hemofilter である AN69ST 膜の特性について触れるとともに、敗血症の重症群に対する適切なタイミングでの AN69ST 膜による CKRT（Continuous Kidney ReplacementTherapy）が単に生命予後改善効果だけではなく、腎傷害を軽減（Rescue）させ、腎機能回復を助長する（Recorvery）といった腎保護効果まで有するかどうか、いわば二刀流の効果を有するかどうかに関する期待と可能性を一腎臓内科医の立場から述べる。

倭 成史 先生
堺市立総合医療センター 腎臓内科

【販売名】セプザイリス
【一般的名称】持続緩徐式血液濾過器
【承認番号】22500BZX00401000

承認番号：JP-AT1-250057 V1.0 08/2025